

感染症講習会（Web）

高齢者施設でのノロやコロナの 集団発生事例から

2024年12月12日（木）16時～

12月16日（月）14時～

福岡市保健所 感染症対策課
感染症対策第1係長 古賀康雅



はじめに

- 社会福祉施設等は、感染症や食中毒が疑われる場合には、保健所に報告することが求められています。

(平成17年2月22日、厚生労働省通知) 社会福祉施設等における感染症発生時に係る報告について

- ア 同一の感染症若しくは食中毒による死亡者又は重篤患者が1週間以内に2名以上（疑い含む）
- イ //
- ウ ア及びイに該当しない場合であっても、通常を上回る感染症の発生が疑われるとき

- 福岡市保健所では、施設からの報告に対し、建設的なアドバイスが実施できるよう取り組んでおります。



2005年1月頃の新聞見出し（1面）

もくじ

- 症例①

「有料老人ホームで発生したノロウイルス集団感染事例」

- 症例②

「高齢者施設で発生した新型コロナ集団感染（クラスター）」

- 保健所から高齢者施設の皆さまへお願いしたいこと

※症例①と症例②について、施設が特定されないよう、
施設概要や患者発生状況の設定などを改変しています。

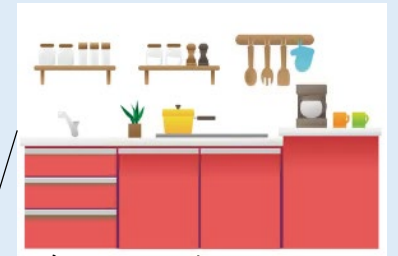
症例① 探知

- 7月16日午前中、とある有料老人ホームより連絡あり。
「施設利用者11名が嘔吐・下痢している」
「異なるフロアで同時発生しており、対応を相談したい」
- 症状がある利用者・スタッフをリストアップしてもらいつつ、
- 当日夕方から現地調査する方針とした。

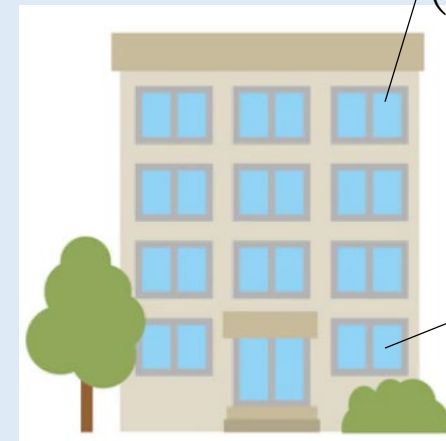


症例① 有料老人ホームの概要

- 4階建て、全てトイレ付き個室、利用者定員180名
- ご飯は、各階で炊き、食器に盛り付ける。
- 汁物は、厨房で調理し、食器に盛り付ける。
- おかずは、業者から冷凍食品を仕入れている。
→ 厨房で加熱し、食器に盛り付ける。
- 家族との面会可。
- 直近の施設内でのイベントなし。

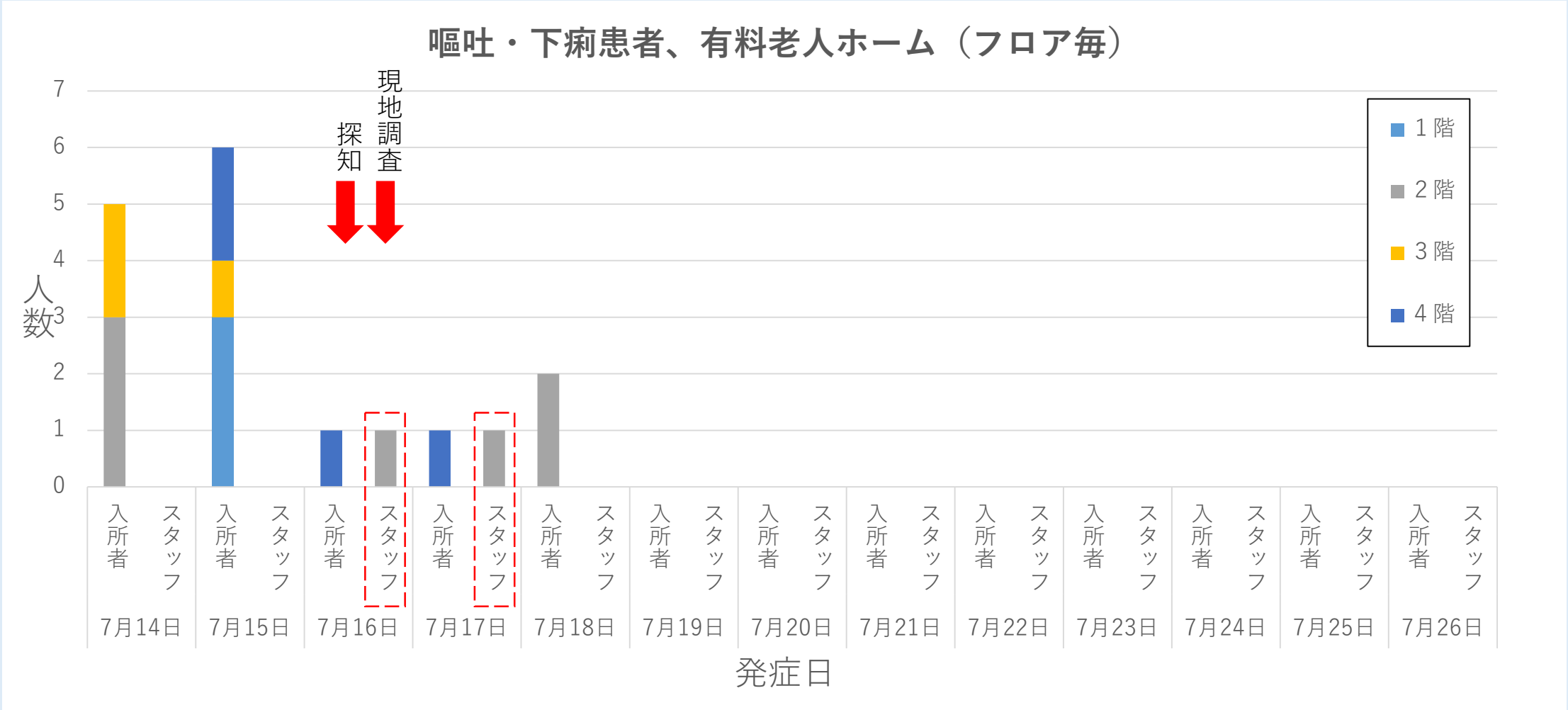


各階に台所あり
(炊飯器、ガス調理器)



厨房あり

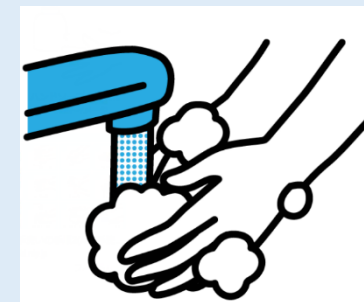
症例① 患者の発生状況



症例① 現地調査 ～手洗い～

- 口頭では「手洗いはしっかりしている」とのことだったが・・・

- 現地では、利用者と接触したスタッフが
→流水＋石けんを用いて、5秒で手洗い終了



- オムツ交換を終えたスタッフが、手洗いすることなく、
→新たに手袋を装着し、別の利用者の処置に入る

手袋を
交換したから
大丈夫！



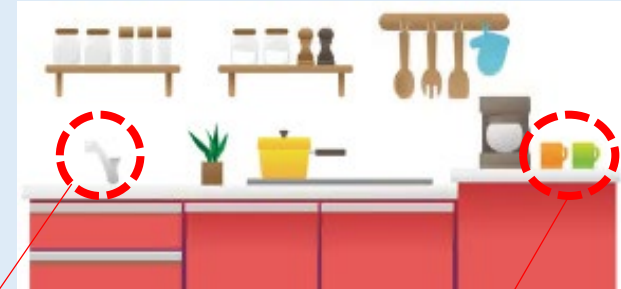
症例① 現地調査 ～消毒薬～

- 口頭では、「次亜塩素酸ナトリウムを使用」とのこと
- 現地では、フロア毎に使用/管理方法がバラバラ・・・
 - 原液の濃度や希釈方法が違う
 - ボトルに表記がない（薬剤名と濃度）
 - ※ 表記と中身が異なるボトルもあり
- 消毒薬を、いつ、誰が、どのように準備したのか不明
- 各フロアが独立しており、指示が通っていない印象あり



症例① 現地調査 ～台所まわり～

- 台所の上には、清潔であるべきものが並んでいた（食べ物、飲み物、食器、炊飯器・・・など）



- 利用者が使用したフォーク（体液がついたもの）が紛れていた
- 水道の蛇口の清掃や消毒がされていなかった

- 手洗いせず、スタッフが冷蔵庫からおやつを取り出し、利用者に提供していた。



手洗いしていない手

症例① 保健所から指導したこと（１）

- まず手洗いの強化

- ・ 5つのタイミング

※利用者に触れる前と後、清潔なものに触れる前、
利用者の体液に触れた後、利用者の物品に触れた後

- ・ 手袋を外すときに汚染するリスク
 - ・ 手袋に穴が空いているリスク

※検査・健診用手袋では、ピンホールが4.2%以下で生産することを求めている基準がある

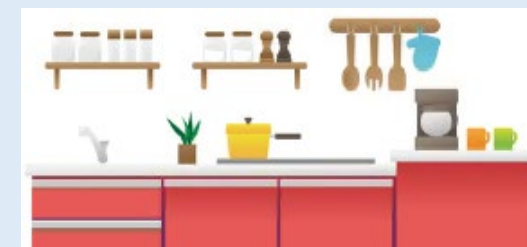
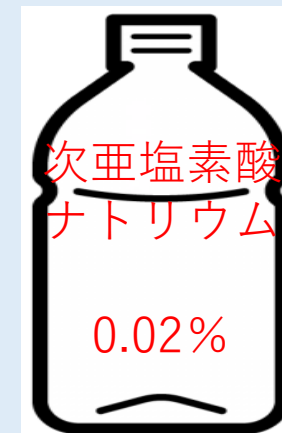
→手袋は手洗いの代わりにはならない



蛍光塗料を用いて手袋とガウンを外してみた

症例① 保健所から指導したこと（２）

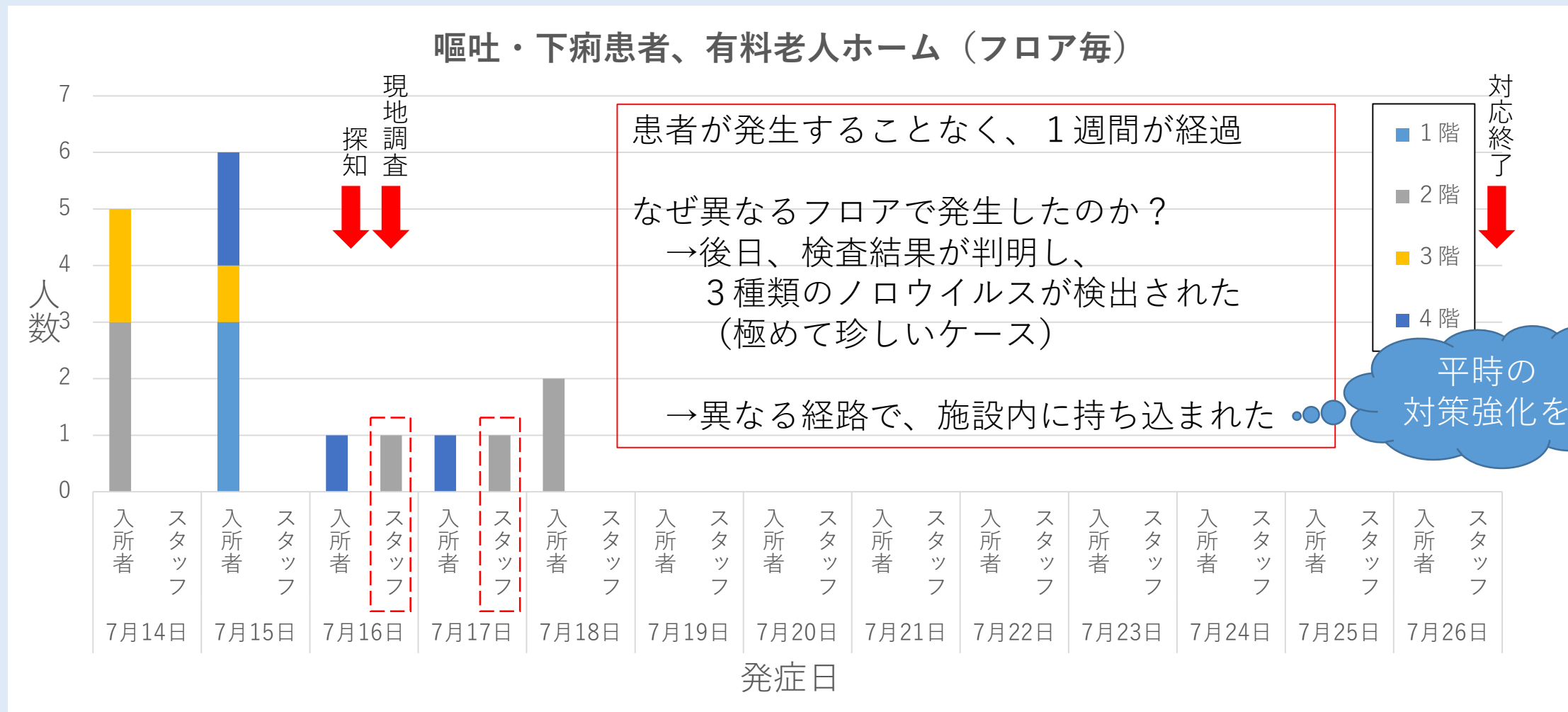
- 消毒薬の適正な使用
 - ・ 施設内で使用する消毒薬を統一すること
 - ・ ボトルに薬剤名と濃度を表記すること
- 清潔な場所/ものを、清潔に保つこと
 - ・ 清潔であるべき場所に、汚れたものを置かない
(台所の上) (→流し台へ)
 - ・ 清潔であるべきものは、手を洗ってから触る
(使用前のPPE、冷蔵庫の中など)



清潔な場所/もの



症例① その後の発生状況



症例② 探知

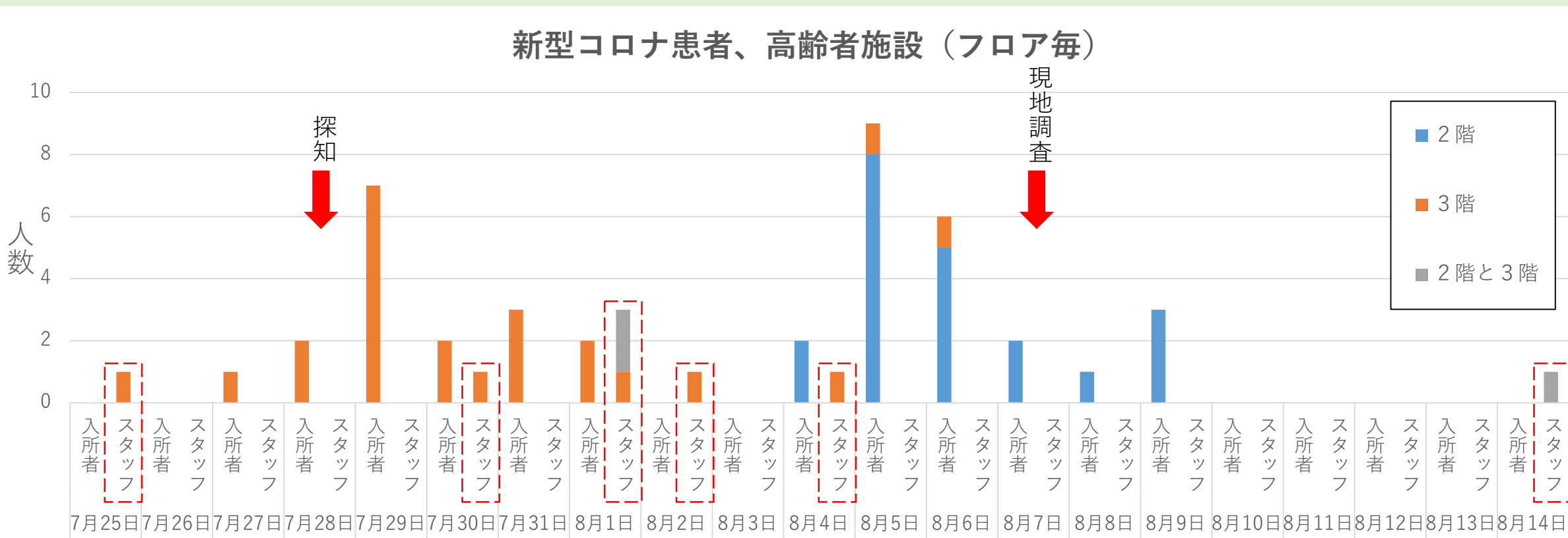
- 7月28日、とある高齢者施設より報告あり。
「入居者からコロナ陽性者が複数出ている」
「スタッフが次々と感染しており、人手不足に陥っている」
「相談したいことがあるが、目の前のことで手一杯・・・」
- 施設見取り図と患者リストを準備してもらい、状況確認とアドバイスを努めつつ、
- コロナ対応が落ち着いた段階で、現地調査の方針とした。

症例② 高齢者施設の概要

- 3階建て、入居者定員80名、4人部屋（洗面台とトイレ付）
- ショートステイの併設あり
- スタッフは約40人
- 家族との面会、レクリエーションなどは全て中止（7/25～）
- 陽性者は同じ部屋に集めている。
- 感染防護具（PPE）は、急遽調達し、十分量がある。
- 抗原検査キットは、1人1回分はある。



症例② 患者の発生状況



スタッフの感染が続いている
フロアを超えて感染が広がっている

症例② 当初、保健所が考えたこと

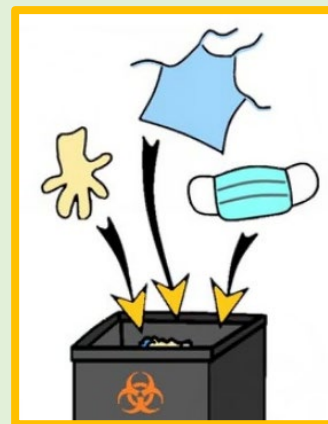
- スタッフの感染が続いている
 - 手洗い・手指消毒ができていない？
 - 患者のケアの最中に、自身の顔面を触っている？
 - 清潔であるべきものが汚染されている？
 - 換気不足？（夏場なので…仕方ない？）
- フロアを超えて感染が広がっている
 - フロア毎の共通点？（人、物、空間、人の動線…）

ゾーニング
の不備も？



補足 ゾーニング

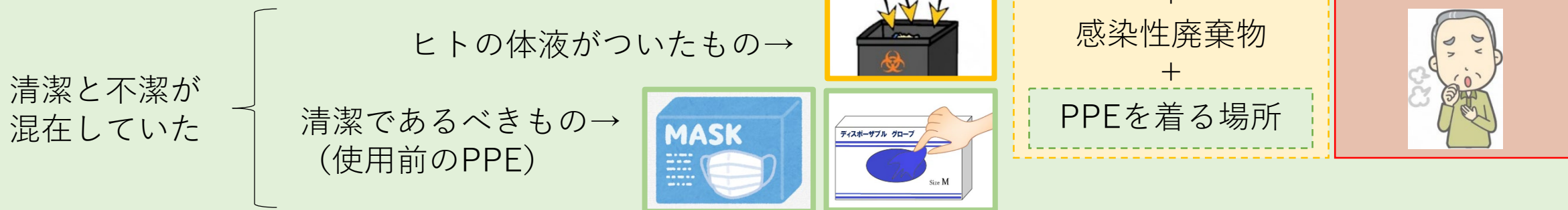
グリーンゾーン	イエローゾーン	レッドゾーン
-	-	空気中に病原体がいる
-	物品の表面に病原体がいる	物品の表面に病原体がいる
通常の空間 PPEを <u>着</u> る場所	汚物処理室 汚物で汚れた場所 PPEを <u>脱</u> ぐ場所	患者が生活する空間



症例② 現地調査 ～ゾーニング①～

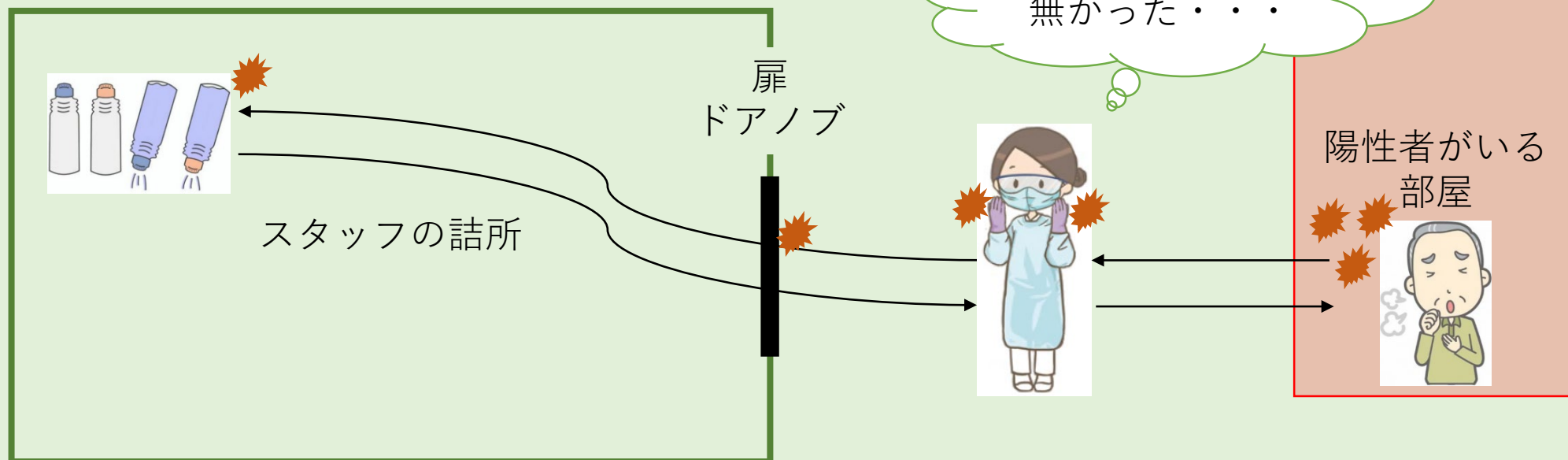
- 口頭では、
「陽性者がいる部屋をレッドゾーンとし、
部屋の前の廊下でPPEを脱着している」とのこと・・・

- 現地では、**イエローゾーン**で
PPEを装着していた・・・



症例② 現地調査 ～ゾーニング②～

- 現地では、
レッドゾーンから出てきたスタッフが、
不足していた物品を求めて、
グリーンゾーンを歩き回っていた。



症例② 保健所から指導したこと（１）

グリーンゾーン	イエローゾーン	レッドゾーン
-	-	空気中に病原体がいる
-	物品の表面に病原体がいる	物品の表面に病原体がいる
通 PP	脱ぐ場所 処理室 汚れた場	換気 空気の流れに注意 生活する空間

エリアから持ち出さない
〃 持ち込ませない

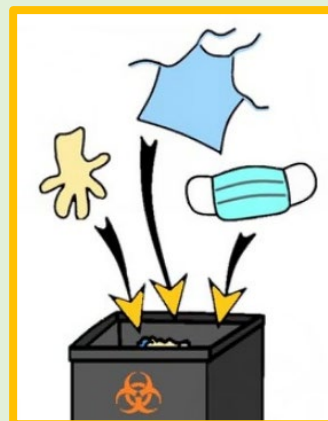
換気
空気の流れに注意



使用前のPPE



適切な消毒

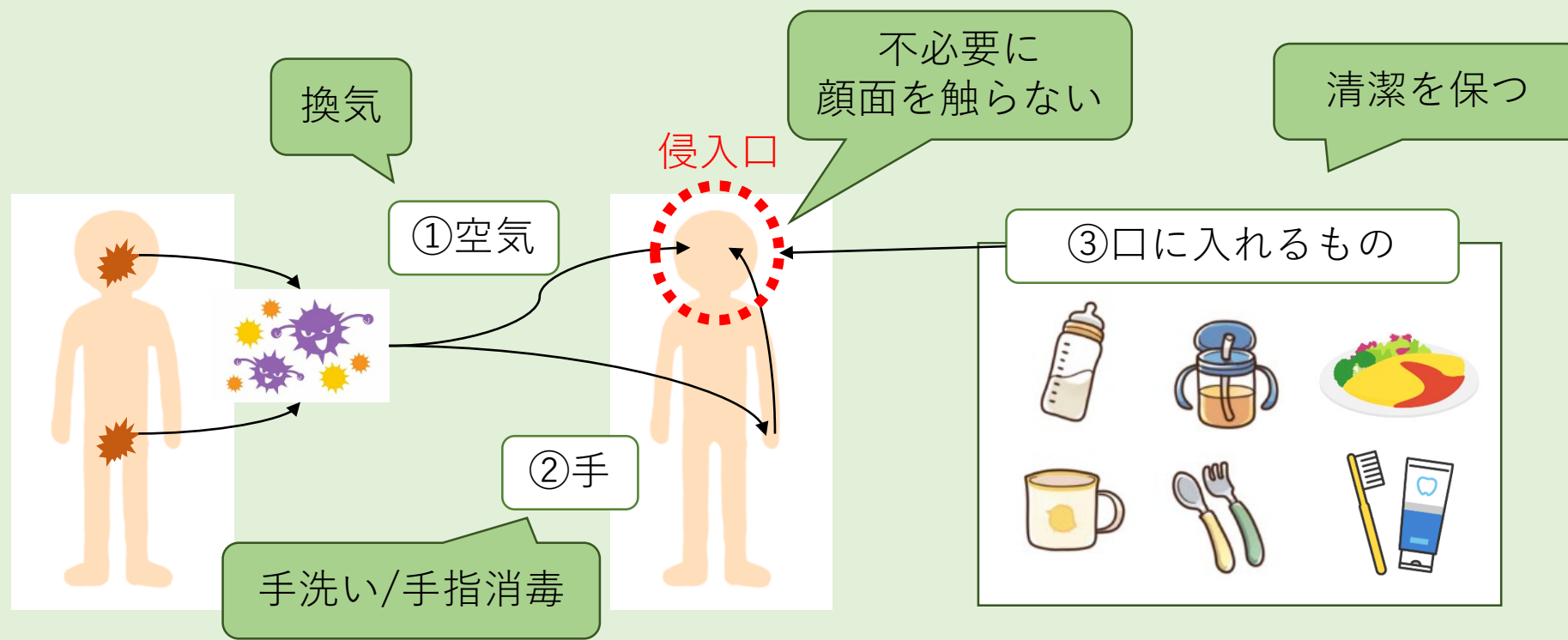


使用後のPPE

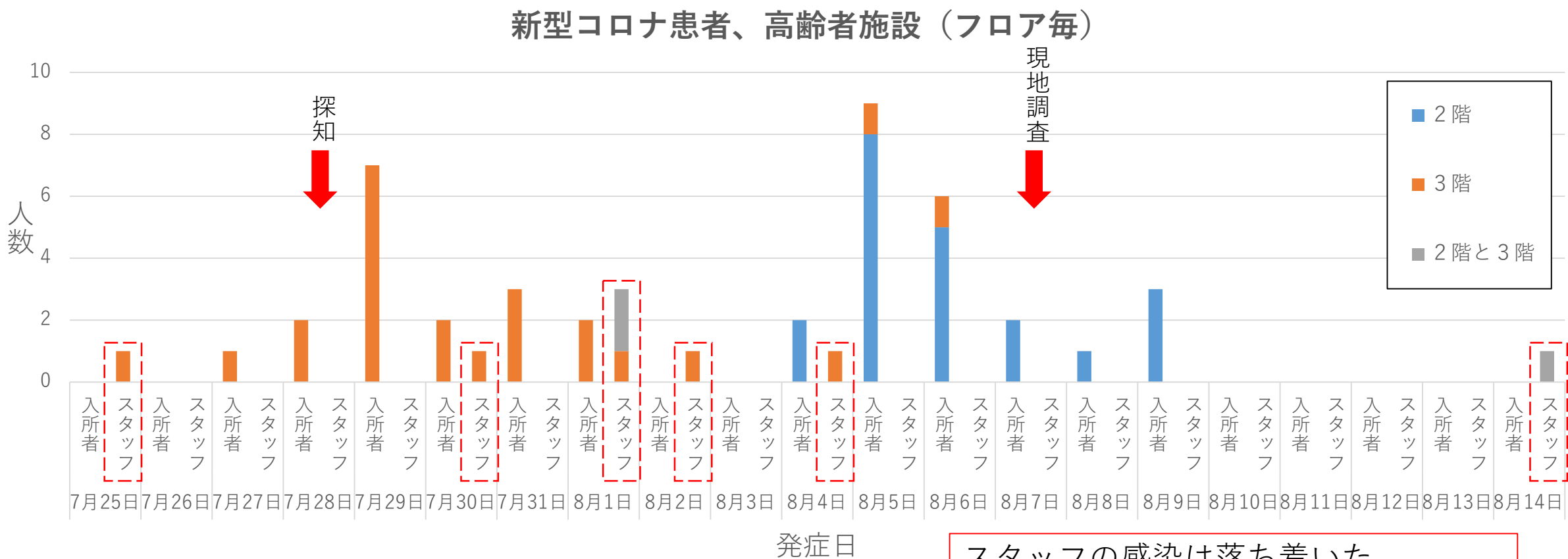


症例② 保健所から指導したこと（２）

- スタッフが感染しないこと
 - 手を清潔に保つ、不必要に自身の顔面を触らない
 - スタッフが口にするもの/場所を清潔に保つ



症例② その後の発生状況



スタッフの感染は落ち着いた
2階から他のフロアに波及しなかった

保健所からお願いしたいこと

- 症例①も症例②も、基本的な感染対策で、状況が改善した症例でした。
- 保健所から特にお願いしたいことを、チェックリストにまとめました。施設管理者の方は、フロア毎に、感染対策が実施できているか、チェックをお願いします。
- 慣例的に行っているケアの方法について、疑問が生じた場合には、遠慮なく福岡市保健所までご相談いただければ幸いです。